

わくわく地域連携教育だより

下関市教育委員会
令和7年8月22日

下関市地域学校協働活動推進員会議(7月10日)



下関市では、学校と地域をつなげる地域学校協働活動推進員を全ての小・中学校、下関商業高等学校に配置しています。しかし、65名中20名が昨年度か今年度から推進員になった経験が浅い推進員です。会議では、先輩推進員である豊浦小学校の原田推進員と長府中学校の金尾推進員に実践発表していただき、具体的にいつ、誰と、どのように打ち合わせや活動の調整をしているのかを説明していただきました。また、短い時間でしたが

情報交換の場を設け、様々な方と相談し合う時間をもつことができました。

地域学校協働活動推進員によるコーディネート



地域学校協働活動推進員は、様々な形で学校や地域と打ち合わせの場をもっています。毎月、地域連携教育担当教員と打ち合わせの時間をもっている推進員もいれば、中学校の生徒会が

集まる場に参加して、中学生と連携の方法を協議している推進員もいました。

児童・生徒を交えた熟議、そして内容の充実



熟議とは、学校や地域に関わる様々な立場の人が集まり、課題を共有して解決策を検討する話し合いのことです。学校運営協議会・小中連携協議会・地域学校協働本部会議等、開催される形は様々ですが、児童・生徒を交えた熟議が多くなっています。下関市では、「参加とともに参画」をキーワードに地域連携教育を推進しており、児童・生徒が話し合いに参加することを通して、子どもたちの当事者意識が芽生えてきています。毎年の熟議が形骸

化しないように、昨年度の取組の評価を共有してから話し合ったり、一人ひとりの発言の場を確保するために最初は4～5人の小グループから話し合うようにしたりするなど熟議を充実させる工夫が多く見られ、熟議の精度が上がっています。話し合ったことが2・3学期にどうあらわれていくのか楽しみです。